

# 三島村・硫黄島研修を終えて

3415210086 農学研究科 1年

田口 翔麻

私は、硫黄島での研修の話があったときに最初に頭に浮かんだのは「硫黄島からの手紙」という映画だったが、その舞台となったのは東京都小笠原諸島の「いおうとう」であり、今回の研修は鹿児島県三島村「いおうじま」であるという間違っただけの認識に気づかされた。このように私は鹿児島県で生まれ、鹿児島県で育ちながらも、鹿児島島の硫黄島についてはほとんど何も知らなかった。硫黄島に着いてまず驚かされたのは「海の色」である。独特の濁ったこの色は、東京湾のような「海の汚れ」を連想させたが、これが鉄分を多量に含んだ温泉と海水との反応により赤茶色に変化していて、潮の流れによって変わる海の色に魅力を感じた。世界でもこのような事例はかなり珍しく、硫黄島に研究者が集まる一因ともなっているようだ。また海岸沿いにある露天風呂は、日本の名湯百選にも選ばれる名泉であるようだ。

私が今回の研修で調査しようと考えていたことは、島の農業についてである。硫黄島では畜産がさかんに行われていて、移住を希望する人には牛がプレゼントされるくらい産業の中心となっていた。島の大半は竹林で覆われているためその資源を利用した、たけのこ生産や加工、竹林に次ぐ面積を占める椿林からの実を絞って作る椿油や、椿油を使った石鹸、シャンプー、リンスが、村の特産品として販売されていた。一方で野菜類や果樹類は、主峰の硫黄岳からの亜硫酸ガスによって栽培が困難とされていた。野菜の供給については本土からのフェリーでの輸送にほとんど頼っている現状であった。どこの地域でも言われているように硫黄島でも農家数は減少してきていて、若者は高校が島にないため本土に出て行ってしまい、職がないため島に戻ってこないことが多いのが現状であった。

私は離島を訪れるのはこれが初めてだったのだが、私のイメージでは島では、その豊富な資源・自然を生かした第1次産業が発達していて、農業も盛んに行われているものだと思っていたため硫黄島では農業（特に作物や野菜類）がほとんどなされていないということに驚かされた。今回の研修では村の人たちとあまり交流することが出来なかったので偏った情報しか得ることは出来なかったが、産業よりも観光で村を活性化しようという印象を受けた。私は、観光を盛り立てていくには、食料の安定的な供給がまず必要なのではないかと考える。確かに硫黄島の特異的な環境、例えば硫黄島の土壌は酸性の土壌であるということや、ガスによる植物の汚染、また酸性雨も降るようなので農業をやっていくには少々厳しいのかもしれない。今回の研修では農業に関わる仕事をなされている方と交流することが出来なかったため島での農業の実態や問題点の生の声を聞くことは出来なかったことが残念であった。

一方で観光の面では、面白い取り組みがなされていてその中でも特に島を訪れた研究者と島に住む子供達を結びつける取り組みは面白いなと思った。

島を訪れた研究者からの先進的な知識を得る→島の子供達に最新の科学に触れさせる

# 三島村・硫黄島研修を終えて

3415210086 農学研究科 1年  
田口 翔麻

この仕組みが確立すれば、優秀な人材を島に呼び込む、優秀な人材を育てることが出来る素晴らしいプロジェクトになるのではないかと思った。

今回の研修では大岩根さんをはじめ職員の方々やジャンベスクールの皆さんには大変お世話になりました。すごくいい経験になったのでまた機会があれば訪れたいと思います。ありがとうございました。